

排尿ケアに対する泌尿器科診療の役割と限界 —多職種によるチーム医療の必要性について—

泌尿器科部長(排尿ケア委員長) 石浦 嘉之



排尿障害とは尿をうまくためられない、あるいは尿をうまく出すことができない状態を指します。代表的な症状として尿失禁、頻尿、夜間頻尿、尿排出困難、残尿感などがあります。生活の質(QOL)が低下し、尿路感染症や腎機能障害をきたすことがあります。尿失禁は皮膚かぶれの原因になり、夜間頻尿は睡眠障害や夜間転倒による骨折の原因にもなります。排尿障害の原因として前立腺肥大症や尿道狭窄症や骨盤臓器脱などの下部尿路通過障害、脳や脊髄や末梢神経の障害に起因した神経因性膀胱、膀胱炎や尿路結石や膀胱癌、過活動膀胱、間質性膀胱炎、加齢、薬剤の副作用等が挙げられます。近年薬剤の多剤併用や相互作用、高齢者に対する副作用の問題が目立っています。

排尿障害治療は泌尿器科が行います。まずは排尿記録を勧めています。尿検査や超音波検査や尿流測定検査などを行い、病状を確認の上治療します。生活指導や薬物療法が主となる治療です。重症度によっては尿路カテーテル管理や手術治療を行います。

排尿障害に対する治療を行っても排尿に関わる問題がすべて解決するわけではありません。尿失禁が完治しない場合は、パッドや失禁パンツを使用しますが、使用方法によっては皮膚かぶれの問題が生じます。尿路カテーテル管理といっても、間歇自己導尿、家族による導尿、尿道カテーテル留置管理、膀胱瘻管理といった方法があり、長所短所があります。排尿機能に問題が無くても、トイレまで移動し排尿姿勢に至るまでの排尿動作に問題があれば、正常な排尿を行えません。薬物による影響や飲水の過剰摂取によって頻尿をきたす場合もあります。

排尿ケアは一連の排尿動作を多角的に支援・管理し、生活の質を向上させていくことです。泌尿器科診療だけでは細やかな対応が困難であり、薬剤師や看護師や作業療法士、理学療法士といったリハビリテーションの専門家などが専門性を生かして支援しております。重点的な排尿ケアが必要な方を選別し、週1回多職種が集まり討議しています。入院患者さんを中心に行っていますが、退院後外来通院される方に対しても行っています。ご興味のある方は総合サポートセンター相談窓口あるいは泌尿器科外来にお申し出ください。

富山ろうさい病院では、毎月、魚津市ケーブルテレビ「NICE-TV」による行政番組「まちかど魚津」に、各診療科の医師が出演し、最新の医療情報を提供しています。

放送日程：10月1日～10月15日

放送時間：①午前7時 ②午後1時 ③午後5時 ④午後10時

「肺がんとたばこについて(仮)」(出演者) 腫瘍内科部長 菓子井 達彦



過去の放送はこちらのQRコードからも確認できます。



NICE-TV まちかど魚津

富山労災病院からのお知らせ

絶賛
放送中



【過去の放送はこちらから】

URL <https://www.toyamah.johas.go.jp/movie/index.html/>